

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9
(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkylu@city.himi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

departmentTop/kyouiku-i/kyouikukenkylu



学びひたるために

氷見市中学校長会 会長

氷見市立西部中学校 校長 広瀬 毅

大学生の時、児童文学作家を目指していた。正義感に裏打ちされた小学生の物語を少し書き始めた。そんな折、灰谷健次郎著『兎の眼』『太陽の子』に出会った。

「自分は表面しか知らない」と、子供を理解しようと教職の道に進んだ。赴任先は富山市内の小学校であった。たちまち4年が過ぎた。その後、中学校に勤務し、教育の難しさや奥深さ、素晴らしさを経験するうちに38年が過ぎ、3月末定年である。

これまで、教育や児童生徒に関わる小説をいくつも読んだ。重松清氏の著書には、いつも泣かされた。石田衣良著『5年3組リョウタ組』は痛快だ。あさのあつこ著『バッテリー』の登場人物は生き生きとしていた。有川浩著『明日の子供たち』は、時間を忘れて一気に読んだ。しかし、教職の魅力は、執筆しようという気を起こさせなかった。

教員の「働き方改革」が叫ばれている。教員を志望する若者の減少や採用試験の倍率低下も問題となっている。しかし、いつも自問自答する。「学校は、魅力あふれる場所となっているか」と。

さて、組織には、三つの役割があると考えている。一つ、本来の目的を達成すること。学校は、児童生徒に生きる力を付ける場である。二つ、組織の成員を生き生きとさせること。学校は、児童生徒や教職員が生き生きと輝く場である。三つ、回りに影響を与え、よい変化を促すこと。「開かれた教育課程」が求められる背景でもある。そして、それぞれは関連している。

給特法が改正され、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が指針に格上げされる。変形労働時間制の導入も予想される。校長として、働き方改革を進め、勤務時間削減に取り組んできた。それは、本来の目的達成とともに、生き生きした教育活動、若者があこがれる教育現場の実現を求めてである。

話は変わるが、指導主事となったとき、大村はま氏が100歳を前になくなり、遺稿となった次の詩を知った。くしくも、2年後、全国学力・学習状況調査が実施された。

「優劣のかなたに」 大村 はま

優か劣か そんなことが話題になる、
そんなすきまのない つきつめた姿。
持てるものを 持たせられたものを
出し切り 生かし切っている
そんな姿こそ。

優か劣か、
自分はいわゆるできる子なのか
できない子なのか、
そんなことを 教師も子どもも
しばし忘れて、学びひたり
教えひたっている、
そんな世界を 見つめてきた。

— 中略 —

今はできるできないを
気にしすぎて、持っているものが
出し切れていないのではないか。
授かっているものが
出し切れていないのではないか。

成績をつけなければ、
合格者をきめなければ、
それはそうだとでも
それだけの世界。
教師も子どもも
優劣のなかで あえいでいる。
学びひたり 教えひたろう
優劣のかなたで。



教員の業務は多様で、多忙化は甚だしい。ましてや、大村氏のようににはできない。しかし、初心を忘れず、子供たちと学びひたる、生き生きした時間をつくり出すために、残りの時間、共に考え行動していきたい。

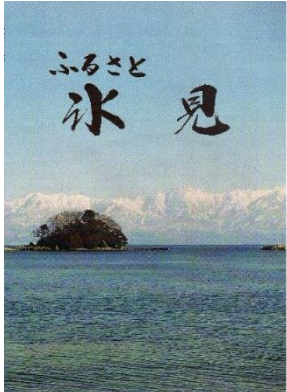
令和元年度 調査研究事業報告

小中連携教育推進委員会

氷見型ふるさと学習のすすめ

上庄小学校 校長 鶴 賢行

小中連携教育推進委員会では、小中学校の各委員が連携し、氷見市のふるさと学習充実のために次のことに取り組みました。



○ ふるさと学習資料集「ふるさと氷見」の改訂

「ふるさと氷見」の改訂時期を迎え、統計資料の確認、新しい情報の追加等の作業を行うとともに、利用している写真等の新規取り直しにも着手しました。

さらに、「氷見の教育基本方針」リーフレットが改訂され、新たに先賢として南 弘 氏が掲載されたことを受け、資料を作成し追加しました。

昨年度「ふるさと氷見デジタル版」が氷見市 HP「みんなで学ぼう！ふるさと氷見」に掲載されましたが、今後は、そのデータ更新にも徐々に対応していきたいと考えています。

新しい「ふるさと氷見」はまもなく完成し、配布されますので、各学校での積極的な活用をお願いいたします。

ICT教育推進委員会

学力向上のためのICTの効果的な活用

西條中学校 校長 有島 洋之

ICT教育推進委員会では、ICTの効果的な活用を推進するために、次のことに取り組みました。

1 ICT活用推進リーフレット「つながるプログラミング教育

～小学校から中学校、そして社会～」の作成

プログラミング教育の必修化に向けて調査・研究を行い、「プログラミングの実践事例」、「プログラミング教材例」、「小学校におけるプログラミング教育 Q&A」等をまとめたリーフレットを作成しました。プログラミング教育の必修化に向けて、このリーフレットを参考にいただければと思っています。



2 ICTの効果的な活用についての研修と「ICT活用事例」の作成

学力向上のためのICTの効果的な活用について、ICT教育推進協力校（西條中、窪小、宮田小）での「ICTを活用した授業づくり研修会」等で研修を深めました。また、市内の小中学校よりICTを活用した事例を収集し、「令和元年度ICT活用事例」を作成しました。電子黒板やタブレットPC等を効果的に活用している実践を紹介しています。

外国語教育推進委員会

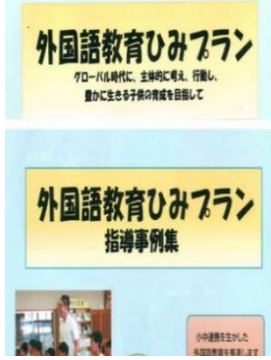
自信をもって外国語活動に取り組むために

湖南小学校 校長 中野 聖子

外国語教育推進委員会では、小中の円滑な接続に向けた外国語教育の実施に向け、次のことに取り組みました。積極的に活用してください。

1 ふるさと教材「We Love HIMI ! 1・2」の冊子の配布

昨年度、作成し公開した教材を、9月に冊子として小学5・6年と中学生に配布しました。デジタル教材の活用も可能です。



2 「外国語教育 ひみプラン」のリーフレットと指導事例集の作成と配布

- ・グローバル時代に、「ふるさと氷見」に誇りをもち、英語を使って積極的に思いや考えを伝え合うために構想した「外国語教育ひみプラン」をリーフレットにまとめました。「出会う(小1・2)」「慣れ親しむ(小3・4)」「使って楽しむ(小5・6)」「生かす(中学1・2・3)」を踏まえた授業実践例等も掲載しました。
- ・指導事例集には、授業事例や4技能5領域CAN-DOリスト及び観点別評価、「氷見市版年間指導計画」、「We Love HIMI !」の活用等を具体的に示し、活用しやすくしました。

令和元年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校の部 13 編、中学校の部 5 編の個人やグループからの応募がありました。

広い視野で適正かつ公正な審査を行い、小中学校それぞれの部門で最優秀賞、優秀賞が選出されました。審査結果は下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

〈小学校の部〉

賞	学校名	氏名	研究主題 (副題を除く)
最優秀賞	朝日丘小学校	二塚 駿	外国語活動を楽しみながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする子供の育成
優秀賞	窪 小学校	増川 凜	主体的に言語活動に取り組み、言葉の力を高める子供の育成
優秀賞	湖南小学校	津田 彩花	楽しく、主体的に問題解決に取り組む子供の育成を目指して
優良賞	比美乃江小学校	河 彩央里	対話を通して、仲間と関わる喜びや学ぶ楽しさを実感する子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	西森 友和	友達のよさを見付け、よりよい学級を目指して活動する子供の育成
優良賞	宮田小学校	小竹 裕香	文学的な文章を、言葉を大切に正確に読み取り、想像を広げて読む子供の育成
優良賞	窪 小学校	澤武 佑紀	仲間と共に、豊かに運動に取り組む子供の育成を目指した指導方法の在り方
優良賞	窪 小学校	竹原 瑞樹	主体的によりよい学級を築こうとする子供の育成を目指して
優良賞	十二町小学校	今市 晃央	主体的・対話的な学びを通して、「分かる」「深まる」楽しさを実感する子供を目指して
優良賞	上庄小学校	鎌 千尋	見通しをもって学習に取り組み、根拠を基に主体的に追究する子供の育成
優良賞	明和小学校	大西 由夏	他と関わり合いながら、考えを広げたり、深めたりする子供の育成
優良賞	海峰小学校		チーム海峰 教職員の指導力向上で子供たちの学習状況・学力の向上を目指す
優良賞	灘浦小学校	小久保亮佑	積極的にコミュニケーションを図ろうとする子供の育成

〈中学校の部〉

賞	学校名	氏名	研究主題 (副題を除く)
最優秀賞	十三中学校	早瀬 勝	生徒の主体的な学びを育む授業改善の挑戦
優秀賞	西部中学校	上杉 志歩	健康な生活に向けて実践する生徒の育成
優良賞	南部中学校	田中 敏樹	英語に親しもうとする生徒の育成
優良賞	北部中学校	笹木 邦紘	共に高め合う学級集団づくり
優良賞	西條中学校	氷見 論芳	互いに高め合いながら学力向上を図る生徒の育成



[実践発表の様子]

以上の審査結果を基に、去る 2 月 19 日 (水) に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。鎌仲教育長からの授賞の後、教育総合センターの澤武所長が講評を述べました。最後に、最優秀賞受賞者の朝日丘小学校 二塚駿教諭と十三中学校 早瀬勝教諭から、教育実践についての発表がありました。詳細については当センター発行の「令和元年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

小中連携について

小中連携推進のための県外視察

令和11月21日(木)～11月22日(金)

4名(小学校2名、中学校2名)の教諭を、先進的な小中連携教育を推進している京都市の小中学校へ派遣しました。下記の「視察報告(抜粋)」を参考にされ、今後の氷見市の小中連携の一層の推進、充実に是非生かしてもらいたいと思います。

「視察報告(抜粋)」

○ 京都市立嘉楽中学校

「あしあと検定」

ノート指導を軸とした授業力向上というテーマの下、年5回実施している活動であった。全校生徒が体育館に集まり、一人ずつ教師にノートの検定を受けていた。教科毎に5つのチェックポイントがあり、その5つ全てクリアすると1級となる。いつのノートをチェックするかは検定日にならないと分からない。ノートのチェック機能とともに、ノートづくりへの意欲付けが図られている活動であった。

「第1学年の数学の授業」

導入では、ラグビーワールドカップの動画で観客がウェーブをしている画像を視聴し、「嘉楽中全員(約200人)でウェーブをしたら何秒かかるのだろう」という課題が提示された。興味を引く課題を設定し、自力解決の時間を十分確保することで、生徒たちは2つの数量を数学的に捉え、じっくりと課題に取り組んでいた。

「第3学年の英語の授業」

Small talk から始まった点は勤務校と類似していると感じた。本時では、自分が考えたロボットを論理的に紹介するという目当ての下、自作のイラストを用いて相手を替えながらプレゼンテーションが行われた。発表後は積極的に質問やコメントを述べている姿が印象的だった。

○ 京都市立向島中学校

「生徒指導3機能「共感的な人間関係の育成」「自己存在感」「自己決定」を生かした授業

授業を参観し、向島中学の掲げる3機能がひしひしと伝わってきた。生徒の関心を高めるための教材や学習課題の提示に工夫が見られた。教師の発問は最小限にとどめ、生徒同士が小集団で考えを出し合う時間を充実させていた。

「知識構成型ジグソー法」

第2学年の音楽の授業では、ギターのコードストローク演奏を習得するために、グループ1で1種類のコードを練習し、それをグループ2では別々のコードを練習した生徒が集まって互いに教え合う。それぞれの学び合いから自然と「分かった」という声が聞こえてきたり、新しく発見したことを他の班にもうれしそうに伝えたりする生徒の姿が印象的だった。

○ 京都大原学院(京都市立大原小中学校)

- ・義務教育学校では、児童生徒が9年間の見通しをもって学校生活を送ることができるメリットがある。小規模であることを生かして、縦割り活動を充実させている。上の学年へのあこがれをもつことが、子供を育てる。
- ・社会に出て、9年間の差はいくらでもある。9年生が1年生から学ぶことがあってよい。教師が教えること以上に、子供同士が教え合う環境が大切である。
- ・「4・3・2」のブロック制では3つの学校があるという意識で子供を育てる。特に、リーダーを育てる段階が3回あることは大きなメリットである。

小中連携(研修)推進について

「来年度の小中連携教育に関する研修」

小中連携については、これまでも、各中学校区で、生徒指導面での共有、地域行事参加による児童生徒の交流・相互理解、教員間の交流の促進等が盛んに行われてきました。来年度は、教育総合センターでの研修を削減し、中学校区毎に、共に取り組む課題を決め、実態に合った研修の推進、活性化を図りたいと考えています。(学力向上、指導力向上、学級経営力向上、生徒指導の充実等)

小中連携推進事業の一つとして、講師招聘等の予算をつけて各中学校区の取組を支援します。特色ある取組を協働的に進めてください。